

【短報】愛媛県東予地域のヨツモンカメノコハムシ

愛媛県におけるヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera quadrimaculata* (Thunberg) の記録は、越智・吉富 (2016)、安田 (2016)、および吉富 (2019) により報告されており、沿岸地域の低標高地を中心に南予地域から中予地域に分布を拡大していることが判っている。おそらく、高知県西部から侵入した個体群が徐々に分布拡大しているものと想定される。重藤ほか (2020) は日本国内の記録を纏めており愛媛県東部からも記録されていると書いているが、実際には愛媛県東部 (東予地域) ~香川県にかけての四国の瀬戸内東部地域では正式には記録されていない。なお、徳島県からは大原・山田 (2020) によって記録された。

サイエンスキャンプ~愛媛大学編~ (東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」) が2019年9月21~22日に西条市ふれあいの里で行われた。ここで講師を務めた吉富は、東予地域にいずれ入ってくる可能性がある昆虫類数種を紹介し、市民参加型の調査の必要性を訴えた。特にノアサガオとサツマイモをチェックすることにより調査が行えるヨツモンカメノコハムシは、調査も容易で誰でも行えるのですぐに調べて欲しいと話した。サイエンスキャンプの終了後、参加者たちがそれぞれの地域で調査を行ったところ、複数地点で生息が確認され、すでに東予地域にはヨツモンカメノコハムシが広く入り込んでいることが判明した。以下に確認地点、確認日、および確認者を記す。すべてノアサガオから得られたものである。なお、一部は採集して標本を保管しているが、多くは写真撮影のみで採集はしていない。図1にこれまでの愛媛県の記録を纏めておく。

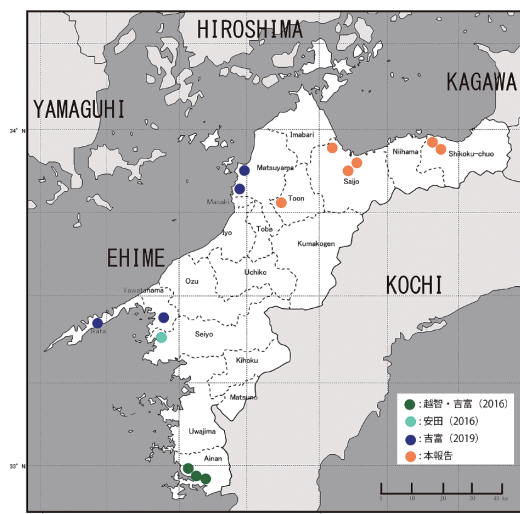


図1. 愛媛県におけるヨツモンカメノコハムシの分布状況。

東温市南方 1206, 2. X. 2019, 上田かおり; 東温市南方 750, 2. X. 2019, 上田かおり; 西条市黒瀬乙, 22. IX. 2019, 金子真琴; 西条市福武, 30. IX. 2019, 金子真琴; 西条市福成寺, 25. X. 2019, 山本貴仁; 四国中央市土居町天満, 26. X. 2019, 河端ななみ; 四国中央市土居町中村, 11. X. 2019, 吉富博之。

東予地域の今治市と新居浜市では調査を行ったものの今のところ確認できていない。また、今回は示していないがノアサガオが生育していてもヨツモンカメノコハムシが未侵入の場所が多く、当該地域では侵入初期であると考えられる。分布拡大の状況から考えて、香川県にも侵入している可能性が高いと考えられ、早急の調査が望まれる。

本報告はサイエンスキャンプ参加者がデータを持ち寄り代表して吉富が取り纏めたことを特記しておく。末筆ながら、サイエンスキャンプの実施ならびにデータの取り纏めにご協力頂いた NPO 法人西条自然学校の山本貴仁氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 越智あずさ・吉富博之, 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. さやばねニューシリーズ, (21): 53-56.
大原賢二・山田量崇, 2020. 徳島県で確認されたヨツモンカメノコハムシ. 徳島県立博物館研究報告, (30): 101-103.
重藤裕彬・末長晴輝・南 雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内、特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 227-243.
安田昂平, 2016. 愛媛県におけるヨツモンカメノコハムシの新分布. 月刊むし, (549): 41.
吉富博之, 2019. 愛媛県に定着したヨツモンカメノコハムシ. さやばねニューシリーズ, (35): 10-11.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)

【短報】九州におけるムキヒゲホソカタムシ4種の記録

記録の少ない微小なムキヒゲホソカタムシ科甲虫4種について、筆者らは今までに記録のないと思われる地域で採集しているため、頂いたデータと合わせて以下に報告する。なお、以下に記録する個体はいずれも良好な照葉樹林内において、広葉樹立ち枯れの噴霧法で得られたものである。

本稿を作成するにあたり、ヒメミスジホソカタムシの貴重な採集データを提供して下さった西真弘氏 (奄美市) 並びに標本を検鏡する機会をくださった秋田勝己氏 (津市), 九州における記録についてご教示くださった今坂正一氏 (久留米市), 一部調査に同行させていただいた笹岡康則 (宮崎市) に深

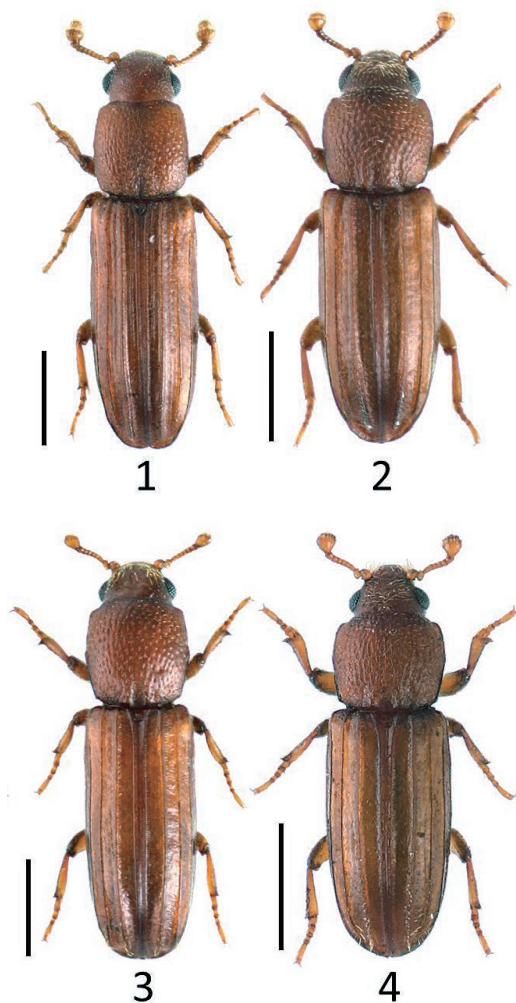


図1-4. 九州産ムキヒゲホソカタムシ. 1, イノウエホソカタムシ; 2, ミナミミスジホソカタムシ; 3, ホソミスジホソカタムシ; 4, ヒメミスジホソカタムシ. スケールバーはすべて 0.5 mm.

くお礼申し上げる。

1) イノウエホソカタムシ *Antibothis morimotoi* Sasaji, 1997

本種は福井県および三重県の標本に基づいて記載された種であり (Sasaji, 1997), 国内では本州, 九州, 屋久島に分布し (久保田, 2010; 大塚・角島, 2012; 青木, 2017 など), 国外では韓国およびアメリカ合衆国のオハイオ州からの記録が知られる (McElrath *et al.*, 2016; Lee *et al.*, 2017). これらは衝突板や連続漏斗トラップ, 羽化トラップなどで得られているほか, 久保田 (2010) はシキミ枯死木からの羽脱を報告している。

九州本土においては福岡県の大根地山 (城戸,

2020), 大分県の黒岳 (城戸, 2004; 堤内, 2014) および宮崎県の大森岳 (笹岡, 2014) から記録されており, 以下は宮崎県から2例目の記録となる。

1 ex. (図1), 宮崎県都城市夏尾町, 6. IV. 2019, 伊藤採集, 保管。

2) ミナミミスジホソカタムシ *Leptoglyphus orientalis* Grouvelle, 1906

青木・平野 (2008) はタナカミスジホソカタムシという和名で *L. orientalis* Grouvelle, 1906 を日本から初記録した。しかし後に, 日本の南西部に生息する種が真の *L. orientalis* であるとしてミナミミスジホソカタムシという和名で改めて記録され, 奈良県を中心とする日本中部に生息する種はタナカミスジホソカタムシ *L. tanakai* として新種記載された (Aoki, 2011)。

ミナミミスジホソカタムシは国内では九州 (鹿児島県), 下甕島, 屋久島, 種子島に, 国外ではインドネシアのスマトラ島およびジャワ島に分布する (青木, 2013)。本種は下甕島と屋久島では多数採集されているが (Aoki, 2011; 久保田, 2012), 九州本土からはほとんど記録されておらず, 鹿児島県薩摩川内市川永野における記録のみが知られている (Aoki, 2011)。以下は, 宮崎県初記録および鹿児島県北東部からの記録である。なお, 以下の宮崎県綾町の記録は, 同地における入林許可証を持つ笹岡康則氏の調査に同行した際のものである。

4 exs., 宮崎県東諸県郡綾町北俣 綾南川沿, 17. V. 2019, 伊藤採集, 保管; 15 exs. (図2), 鹿児島県曾於市末吉町 南之郷, 11. VIII. 2019, 中野採集, 保管。

3) ホソミスジホソカタムシ *Leptoglyphus kubotai* Aoki, 2011

本種は鹿児島県の屋久島および伊豆諸島の三宅島で採集された個体を基に記載され (Aoki, 2011), その後は屋久島で度々採集されているほか (久保田, 2012), 最近になって宮崎県や南西の島嶼域に分布することが報告された (笹岡, 2018; 中野ら, 2019)。

笹岡 (2018) および生川 (2018) による宮崎県綾町からの記録以外に九州本土における本種の採集記録はなく, 以下は鹿児島県本土初記録となる。

2 exs., 鹿児島県曾於市末吉町 南之郷, 11. VIII. 2019, 中野採集, 保管; 2 exs., 鹿児島県肝属郡肝付町後田 甫与志岳麓, 14. VI. 2018, 伊藤採集, 保管; 96 exs., 同, 13. VIII. 2019, 中野採集, 保管; 71 exs. (図3), 同, 16. VIII. 2019, 中野採集,

保管; 3 exs., 同, 19. IV. 2020, 伊藤採集, 保管.

4) ヒメミスジホソカタムシ *Leptoglyphus sasaokai* Narukawa, 2019

本種は宮崎県および鹿児島県の屋久島で採集された個体をもとに記載された種であり (Narukawa, 2019), 体長 1.5 mm ほどで, 日本産同科最小の種である. 本種は触角第 1 節に顕著な毛束を有する, 上翅間室に点刻を有さないなどの特徴から他種と容易に区別することができる (Aoki, 2011; Narukawa, 2019).

以下は, 鹿児島県本土および奄美大島初記録となる.

- 1 ex. (図 4), 鹿児島県肝属郡肝付町後田 甫与志岳麓, 16. VIII. 2019, 中野採集, 保管; 1 ex., 同, 19. IV. 2020, 伊藤採集, 保管; 1 ex., 鹿児島県大島郡 (奄美大島) 住用町 タカバチ山, 6. X. 2017, 西真弘採集, 秋田勝己保管 (標本識別番号: KAC 139789).

引用文献

- Aoki, J., 2011. Four species of the genus *Leptoglyphus* from Japan (Coleoptera, Bothrididae). Elytra, Tokyo, New Series, 1 (2): 263–271.
- 青木淳一, 2017. いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト. さやばねニューシリーズ, (28): 1–9.
- 青木淳一・平野幸彦, 2008. ミスジホソカタムシ属の日本未記録種. ねじればね, (123): 1–3.
- 城戸克弥, 2004. 九州におけるトサヒメテントウとイノウエホソカタムシの記録. 甲虫ニュース, (145): 20.
- 城戸克弥, 2020. 丸山式 FIT で得られた筑紫野市大根地山の甲虫類 (1). KORASANA, (94): 77–90.
- 久保田義則, 2010. ホソカタムシの屋久島新記録種 4 種. 月刊むし, (474): 43–44.
- 久保田義則, 2012. 屋久島のホソカタムシ. SATSUMA, 62 (148): 203–217.
- Lee, S.-G., J.-W. Nam, & J. Lim, 2017. A taxonomic review of the family Bothrididae Erichson (Coleoptera: Coccinelloidea) in Korea represented by ectoparasites of wood-boring insects. Journal of Asia-Pacific Biodiversity, 10: 208–211.
- Mcelrath T. C., R. A. Andrew, & J. V. Mchugh, 2016. *Antibothrus morimotoi* Sasaji, an Old World cocoon-forming beetle (Coleoptera: Coccinelloidea: Bothrididae) newly established in North America. Zootaxa, 4154 (3): 323–330.
- 中野文尊・緒方裕大・大野友豪, 2019. 島嶼におけるホソミスジホソカタムシの記録. 月刊むし, (581): 63.
- 生川展行, 2018. 宮崎県綾町で採集した甲虫の記録. タテハモドキ, 55: 9–12.
- Narukawa N., 2019. A new species of the genus *Leptoglyphus* (Coleoptera: Bothrididae) from Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 25 (2): 163–164.
- 大塚健之・角島幸二, 2012. 広島県のホソカタムシ類の記録. 月刊むし, (502): 8–9.
- Sasaji H., 1997. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothrididae) from Japan, with notes on the Japanese Bothridinae. Esakia, (37): 111–116.
- 笹岡康則, 2014. 宮崎県内で採集した甲虫. タテハモドキ, (50): 19–27.

笹岡康則, 2018. 2018 年綾町照葉樹林で確認された甲虫類. タテハモドキ, (55): 1–8.

堤内雄二, 2014. 大分県のホソカタムシ. 二豊のむし, (52): 42–49.

(中野文尊 501–3154 岐阜市岩田東 3–200)
(伊藤玲央 870–1141 大分市下宗方 1362–7)

【短報】対馬におけるミユキシジミガムシの記録

ミユキシジミガムシ *Laccobius (Laccobius) inopinus* Gentili, 1980 は, 国内において本州, 四国, 九州および屋久島に分布している (上手, 2007; 中島ほか, 2020). 池沼周辺の湿地帯, 休耕田, 放棄水田など比較的浅い水域を好むが, 開発や乾燥化などの影響で生息環境が減少し, 環境省版レッドデータブックでは準絶滅危惧 (NT) として掲載されている (環境省 (編), 2015). 筆者は対馬において本種を採集しているので, ここに記録しておきたい.



図 1. 対馬産ミユキシジミガムシ.

1 ♂, 長崎県対馬市上県町志多留田ノ浜, 9. VII. 2018, 上手雄貴・上手奈美採集, 上手雄貴保管 (図 1). 水田地帯の一角にあった湿地において採集した.

引用文献

- 上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42 (2): 12–16.
- 環境省 (編), 2015. Red Data Book 2014, 5 昆虫類 日本の絶滅のおそれのある野生生物. xxxix + 509 pp. ぎょうせい, 東京.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版, 東京.
- (上手雄貴 463–0003 名古屋市守山区大字下志段味字穴ヶ洞 2266 番 132 名古屋市衛生研究所)
(上手奈美 500–8381 岐阜市市橋 4–6–24)